

ファーストページプレビューについて

平成29年12月
知識基盤情報部



科学技術振興機構

ファーストページプレビューとは

◆ 抄録が日本語・英語どちらも無い記事について、抄録の代わりにとしてPDFの1ページ目を画像で表示する機能

抄録あり記事

記事の1ページ目を画像として表示 (ファーストページプレビュー)

抄録を表示

抄録

科学技術振興機構 (JST) が運用する電子ジャーナルサイト「J-STAGE」は、運用開始から13年が経過し、海外の有力電子ジャーナルサイト等と比較すると、ユーザーインタフェースや機能面を中心にその陳腐化が否めない状況であった。JSTではユーザビリティの向上、国際発信力のさらなる強化を目的として、新システム「J-STAGE3」を開発し、(1)過去の公開サイトであるJournal@rchiveの統合、(2)デザイン/ユーザーインタフェースの一新、(3)データベース形式のXML国際標準形式への移行、(4)購読・販売管理機能の強化、(5)学協会連用工数の削減および(6)投稿審査システムの改善を実現する。一方で、2010年度末に国内学協会誌の電子化状況について調査した結果、国内学協会誌の電子化率は全体で62%であったが、人文社会系は34%と依然遅れている。また、言語別で見ると英文誌92%に対して和文誌は55%という結果になり、さらなる電子化の推進が必要な状況にあることが判明した。このような状況を踏まえ、新システムJ-STAGE3の機能と方向性、国内学協会誌の電子化促進における役割について触れる。

引用文献 (7)

1) J-STAGE. <http://www.jstage.jst.go.jp/browse-char/ja>, (accessed 2012-03-01).

2) 佐藤 竜一、飯田正樹、川井千香子、甲斐達幸、十屋江里、宮川謙至「国内学協

抄録なし記事

記事の1ページ目

情報管理 2016年1月号

研究会報告

研究データ同盟 (Research Data Alliance) 第6回総会

はじめに

研究データ同盟 (RDA: Research Data Alliance) は、研究データを共有し活用可能な状態にすることを目標として発足した国際組織であり、米国政府、欧州委員会 (EC)、オーストラリア政府の支援により2013年に発足した。提供するサービスでも参加できるオープンなコミュニティで、現在は102の国・地域から1200以上のメンバーとして加わっている。RDAの発足の経緯については「特集記事」66頁10号 (2014年1月号) に掲載された集合報告「研究データ同盟 (Research Data Alliance) 第6回総会」に詳しくまとめられているため割愛する。RDA総会は半年に1回の頻度で開催されており、これまでスウェーデン (ヨーテボリ)、米国 (ワシントンD.C.)、アルゼンチン (ブエノスアイレス)、オランダ (ヒュムスワルダム)、英国 (マンチェスター) と計6回開催が行われてきた。今回の総会はオランダ (アムステルダム) で開かれ、参加国は前回の総会より50%以上の増加となった。開催が2016年1月19日(水)から21日(金)までと前回の総会と比較すると、研究データの共有・活用に関心が高まっていることが伺われる。

RDAは群として、「Openness」(Consensus)、「Balance」(Harmonization)、「Community Driven」(Non-profit) を掲げ、ポリシーの採択や課題解決のプロセス等、すべてを参加者が話し合い決定する。そのためRDAは単なる意見交換の場として極めて重要であり、実際今回のセッションでも活発な発表・議論がなされた。

2. プログラム概要

プログラムの主な内容は、実業家、産官学、産学官のセッションであり、資料会は30分のテーマについて個別のセッションで議論された。資料会は Working Group (WG)、Interest Group (IG)、Birds of a Feather (BoF) の3つの形式があり、それぞれ議

導入の理由

◆ Google Scholarのインデキシングポリシーで、下記が明記されている

「Google Scholarで検索可能となるための必須要件として、ログインや追加的なリンククリックを行うことなしに、完全な抄録、または**1ページ目の全体像**を表示させる必要がある。」

<https://scholar.google.com/intl/en/scholar/publishers.html#policies>

◆ 上記に準拠できない場合、Google Scholarの検索結果に記事がヒットしなくなる

◆ J-STAGEでは前述のファーストページプレビュー機能を実装（平成26年7月）

➤ 関連資料：Google等との連携強化およびオープンアクセス対応方針について

https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/renkeikyoka_openaccesshoushin_0612.pdf

◆ ファーストページプレビュー機能の実装により、Google Scholarの検索結果にJ-STAGEの記事は問題なくヒットしている

発行機関へのご連絡

従来と同様ですが、改めて下記をご連絡します。

- ◆ 抄録が存在する記事については、**抄録の登録（メタデータ登録）をお願いします。**
 - 本対応は本来、抄録を持たない記事をGoogle Scholarにヒットさせる回避策です。
 - 抄録をメタデータで登録することで、J-STAGE内の詳細検索（抄録検索）およびGoogle Scholar等の外部連携先からの検索でヒットするようになります。
- ◆ 新規公開記事および修正記事について、抄録のメタデータが日英両方存在しない場合、ファーストページプレビューが自動的に作成・公開されます。（1ヶ月に一度）